

令和元年6月5日現在

機関番号：31203

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02906

研究課題名(和文) 西夏王国の人名に関する研究 多民族国家における文化交流・融合の視点から

研究課題名(英文) People's names in the Xixia Kingdom

研究代表者

佐藤 貴保 (Sato, Takayasu)

盛岡大学・文学部・准教授

研究者番号：40403026

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、ロシア科学アカデミー東方文献研究所等が所蔵する西夏時代の文書・帳簿・仏典の奥書にある西夏時代の人名を収集や中国敦煌莫高窟・瓜州榆林窟の壁面に残る訪問者の人名を収集した。調査の結果、遊牧民や農民の中にタングート人が中国風の、漢人がタングート人風の名前を名乗っている例を多数検出でき、中国風とタングート人風の二つの名前を有していた漢人の命名事例があることが確認された。以上の事例から、漢人・タングート人がそれぞれ有していた命名文化が支配者階層だけでなく一般の農牧民レベルでも混じりあっていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西夏王国が支配者層を輩出したタングート人や、西夏が支配する以前から寧夏・甘粛地方に土着していた漢人・チベット人等によって構成される多民族国家であったことや、タングート人の姓の由来に関する研究は中国の研究者によってすでに発表されている。しかしながら、各民族が他の民族の人名の命名方法をどの程度受け入れていたのかに着目した研究はこれまで無かった。本研究によって、支配者階層のみならず農牧民レベルにまで、タングート人が中国風の、漢人がタングート人風の名前を名乗る事例やタングート風・中国風両方の名を有する事例を検出することができ、各民族の文化が融合している実情を命名文化という視点から明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：We collected names of people in the Xixia Kingdom from various Xixia materials. We reviewed Xixia documents, registers and colophons of Buddhism sutras housed in the Institute of Oriental Manuscripts at the Russian Academy of Science and visited Dunhuang Mogao and Guazhou Yulin caves in the Gansu province to collect visitor's names written on the walls of each cave. We found many cases where Tangut nomads and farmers took Chinese-style names and vice-versa. A certain person took both a Tangut-style and a Chinese-style name. We conclude that the Tangut and Chinese people integrated within each name scheme in the governing, nomad, and farmer class, at least at the beginning of the 13th century.

研究分野：中央ユーラシア史

キーワード：西夏 タングート 漢人 敦煌 カラホト 人名 文化交流

1. 研究開始当初の背景

西夏王国は11～13世紀前半にかけて、現在の中国寧夏回族自治区や甘肅省西部(河西回廊)を中心とする地域を支配した。この国の皇帝を輩出したチベット系遊牧民タングート人はもともと上述の地域に土着していたわけではなく、四川省北部あたりから移動を始めた末に、もともと漢人やチベット人の居住地である寧夏・河西回廊を征服したことが知られている。

タングート人の皇帝が征服地の漢人やチベット人を支配することになったこの国では、タングート人だけでなく漢人も官僚として採用され、タングート人が話す西夏語だけでなく、漢語やチベット語も公用語とする多民族国家であったことはすでに知られていた。また西夏の王族が漢人と通婚していた事例や、支配者階層ではタングート人風の人名を名乗る事例が漢人の間に、漢人が従来から持っていた中国風の人名を名乗る事例がタングート人の間にみられることも知られていた。しかしながら、このような漢人とタングート人が元来持っていた命名文化の交流・融合が200年近い西夏の支配期間中にどの程度深く、下層の民衆にまで浸透していたのかは明らかにされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、西夏の支配地域において、タングート人の命名法が漢人の間に、また漢人の命名法がタングート人の間にどの程度浸透していたのかを、主に西夏語で書かれた文献から人名のデータを収集のうえ分析することによって、多民族国家であった西夏王国の中で各民族の文化の独自性が保存されていたという従来の研究成果によって明らかにされた事例だけでなく、民族相互の文化交流や融合がどの程度進んでいたのかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

これまでの研究で、タングート人は2字の姓を、漢人は1字の姓を有していることが知られている。したがって、人名のうち姓を除いたものが名となることから、名の由来がタングート風か中国風かを調査することとした。

西夏の名を記した資料としては文書(特に軍籍とよばれる徴兵対象者のリスト)や仏典の奥書に書かれる発願者の姓名、中国甘肅省にある敦煌莫高窟・瓜州榆林窟の石窟寺院の壁面に墨書もしくは刻み込まれた巡礼者等の姓名が挙げられる。いずれも写真版が公開されているものの不鮮明な箇所が多々あることから、本研究課題ではそれらの資料を可能な限り実見調査に基づいて網羅的に集めることとした。

文書・仏典はロシア科学アカデミー東方文献研究所が所蔵しているため、研究代表者の佐藤貴保と研究分担者の荒川慎太郎は同研究所を訪問し、佐藤は文書から、荒川は仏典の奥書から人名のデータを収集した。

中国の石窟寺院へは毎年冬に訪問し、佐藤は漢文の人名、荒川は西夏文の人名のデータを実見調査の上で移録した。

以上の資料を基に人名、特に名の部分が中国風の人名なのか、タングート風の人名なのか分析を行った。

4. 研究成果

(1) 研究成果の概要

佐藤・荒川によるロシア・中国での資料調査と人名の分析の結果、多くの知見が得られた。主要なものをまとめると以下の通りとなる。

軍籍に登録されている徴兵対象者の名前を分析すると、タングート人の姓を持ちながら中国風の名を名乗る者、漢人の姓を持ちながらタングート風の名を名乗る者が少なからず存在することが明らかになった。軍籍はいずれも1200年代という、西夏支配時代のうちの末期に、モンゴルとの国境に近い黒水(内モンゴル自治区エチナ旗)とよばれる北の辺境地帯で書かれたものであった。西夏では15歳以上の男子はすべて徴兵の対象となることから、登録されている人物は黒水地方でオアシス農耕や遊牧を行っていたいわゆる農牧民であったとみられる。このことから、西夏時代末期には辺境の農牧民という低い階層の人々もタングート人が中国風、漢人がタングート風の名前を名乗るといった命名文化の融合が進んでいたことが判明した。

敦煌莫高窟・瓜州榆林窟の壁面に残る巡礼者等の姓名については、2017年に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所より刊行された松井太・荒川慎太郎編『敦煌石窟多言語資料集成』に調査データを網羅的に発表した。収集した人名を分析したところ、榆林窟第19窟甬道北壁に12世紀後半に書かれた「高崇徳小名那征」という画家の人名を刻んだ漢文が検出された。「高」は漢人の姓であり、「崇徳」は中国風の名だが、「小名」の後の「那征」はタングート人によくみられる名であり、漢人が中国風・タングート風両方の名を所持するという事例があったことが明らかになった。

以上の分析から、少なくとも 13 世紀初頭までには西夏国内にいるタングート人が中国風の、漢人がタングート風の名を名乗るといふ、命名文化の混合やタングート風・中国風の名を名乗るといふ命名文化の融合が支配者階層のみならず、農牧民階層にまで浸透していたと結論付けた。

(2) 研究成果の発信

後掲「5. 主な発表論文等」にもある通り、学術論文や学会報告で随時研究成果の発表を行い、2019 年 3 月には冊子体の報告書『西夏王国の人名に関する研究 多民族国家における文化交流・融合の視点から』を刊行し、関係する研究者・研究機関に配布した。この報告書では、一部の軍籍や 2018 年以降の調査で収集した莫高窟・榆林窟に残る人名データを集成している。研究期間終了後の 2019 年 4 月 21 日には、岩手大学教育学部で開催された「中国古印シンポジウム in 岩手」で佐藤が「岩手県立博物館蔵西夏文印章について」と題して、本研究課題で得られた知見を加えた研究発表を行った。

(3) 今後の課題・展望

本研究課題の研究期間内に調査しきれなかった文書や仏典はなお膨大にある。文書類の場合は崩し字で書かれる難解な西夏文字の判読が障壁となるが、今後も人名データの収集を進め、タングート人・漢人の命名文化の混合・融合が西夏時代の中でもいつ頃から進展していくのか、地域的な偏差がないのかを考察していく余地がある。

また、本研究課題の遂行にあたって軍籍を調査したところ、タングート風でも中国風でもない人名の事例も検出された。こうした人名はタングート人でも漢人でもない、他の民族の人名である可能性が高い。チベット人、ウイグル人、契丹人、女真人などである可能性が想定されるが、それらを特定するには漢語・西夏語以外の言語に精通している必要がある。今後は他言語を専門とする研究者の協力を得たうえで人名の由来を解明する必要がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 6 件)

佐藤貴保「西夏の河西回廊支配 出土史料からの再検討」『出土文字資料と現地調査からみた河西回廊オアシス地域の歴史的構造』平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「出土文字資料と現地調査による河西回廊オアシス地域の歴史的構造の研究」(課題番号 25370831) 成果報告書, 査読無, pp. 45-61, 2016 年.

荒川慎太郎「河西地域石窟の西夏文題記に関する覚書(4)」研究成果報告書(科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 研究代表者: 荒川慎太郎)「ロシア所蔵資料の実見調査に基づく西夏文字草書体の体系的研究」, 査読無, pp. 1-30, 2016 年 3 月.

佐藤貴保「敦煌石窟西夏期漢文墨書・刻文集成」松井太・荒川慎太郎(編)『敦煌石窟多言語資料集成』府中, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 査読無, pp. 335-362, 2017 年.

荒川慎太郎「敦煌石窟西夏文題記銘文集成」松井太・荒川慎太郎(編)『敦煌石窟多言語資料集成』府中, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 査読無, pp. 241-333, 2017 年.

佐藤貴保「カラホト出土軍籍から見た西夏王国国境地帯の状況」, 査読無, 『比較文化研究』第 28 号, pp. 43-57, 2018 年.

佐藤貴保「カラホト出土軍籍から見た西夏王国国境地帯の状況(II) 虚偽記載とその背景」, 査読無, 『比較文化研究』第 29 号, pp. 59-72, 2019 年.

[学会発表](計 7 件)

佐藤貴保「西夏の河西回廊支配 出土史料からの再検討」, 2015 年, 国際ワークショップ・河西調査報告会「出土文字資料と現地調査による河西回廊オアシス地域の歴史的構造」.

佐藤貴保「莫高窟・榆林窟における西夏時代の漢文題記, 供養人像について」, 2016 年, 2016 年度第 1 回「新出多言語資料からみた敦煌の社会」共同利用・共同研究課題」研究会.

佐藤貴保「敦煌石窟西夏期漢文資料研究の現状と課題」, 2017 年, 「敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究」会合.

ARAKAWA Shintaro (荒川慎太郎) "Linguistic researches of Tangut based on the corpus", 2017 年, International workshop: Studies of Tibet-Burman languages, based on the corpus: Tibetan and Tangut.

佐藤貴保「莫高窟・榆林窟西夏供養人像について 2017 年度現地調査の成果を中心に」, 2018 年, 「敦煌石窟における供養人像の歴史学的研究」2018 年度第 1 回会合.

ARAKAWA Shintaro (荒川慎太郎) "Linguistic researches of Tangut, based on IOM Collection", 2018 年, International workshop: Studies of Historical Documents from Central Asia, based on IOM Collection.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：荒川慎太郎

ローマ字氏名：Arakawa Shintaro

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：アジア・アフリカ言語文化研究所

職名：准教授

研究者番号(8桁): 10361734

(2) 研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。